神護寺文書(七)

二一六　足利直義御教書(觀應二、八、十九)

祈禱事、殊可致精誠之狀、如件、

觀應二年八月十九日　(直義花押)

神護寺衆徒中

二一七　宮將軍令旨(正平六、十一、十一)

御祈禱事、殊可令致精誠者、宮將軍令旨如此、悉之以狀、

正平六年十一月十一日　右少將(花押)

神護寺々僧等中

二一八　後村上天皇綸旨(正平六、十二、十五)

當寺御祈禱事、閒食了、猶殊可抽精誠者、

天氣如此、仍執達如件、

正平六年十二月十五日　左中將(花押)

神護寺々僧中

二一九　足利義詮御教書(正平七、閏二、十八)

天下靜謐祈禱事、近日殊可致精誠之狀、如件、

正平七年閏二月十八日　(義詮花押)

神護寺衆徒中

二二〇　足利義詮御教書(觀應三、閏二、廿九)

天下安穩祈禱事、可致精誠之狀、如件、

觀應三年閏二月廿九日　(義詮花押)

神護寺衆徒中

○本文書の裏打紙の餘白に、「自江州拜領御教書」なる後註あり。

二二一　高倉大納言書狀(觀應三、七、九)

(端裏書)「高倉大納言返報　寺家御祈禱旨事　觀應三、七、十二、到」

不審之處、悅奉候了、抑世上之事、實不可說々々々、言

語道斷事候歟、又御祈禱事、委令伺申、綸旨申成之候、
諸事令申此使者候、恐々謹言、
七月九日　（草　名）

二二二二　右少辨奉綸旨（觀應三？、七、九）

御祈禱事、致忠懃之由、被聞食了、尤以神妙、近日殊猶
可抽精誠者、
天氣如此、仍執達如件、
七月九日　右少辨（花押）
神護寺衆徒等中

二二二三　柳原資明奉御教書（——、二、廿七）

當寺御影堂御作御本尊孔雀明王本樣料、明日可被奉渡之
由、被仰下之狀、如件、
二月廿七日　按察使（資明花押）
神護寺々僧中

二二二四　某書狀（——、二、廿八）

○禮帋
（端裏）「　（切　封）　」
（端書）「光明寺」
追申
昨日御教書、聊大樣候歟之間、奉行人書改之候、以前
狀、可被返進之由、同所候也、
○本帋
昨日被仰候孔雀明王像、爲拜見、佛師堯圓、令登山候、
可得御意候、於御本尊者、何樣卽可被渡進之由候也、恐
々謹言、
二月廿八日　（草　名）
助僧都御房

二二二五　某（二二四號文書差出人と同人）書狀（——、二、廿九）

御本尊事、今日被造立候、可被返渡候、定日未被仰下候、
但古像も可被修複（マヽ）之樣、其沙汰候、然者定聊經日數候歟、

有御伺、重可被仰候、御祈事、可被成　綸旨之由、被仰下候、念可有申御沙汰旨、其沙汰候也、恐々謹言、

二月廿九日　(草　名)

二二六　足利義詮御教書(文和二、三、二)

○包紙

神護寺衆徒御中　　義　詮

○本紙

天下靜謐御祈禱事、轉讀大般若、近日殊可被凝懇念之狀、如件、

文和二年三月二日　(義詮花押)

神護寺衆徒御中

二二七　足利義詮御教書(文和二、六、七)

天下靜謐御祈禱事、今明殊可被凝懇府之狀、如件、

文和二年六月七日　(義詮花押)

神護寺衆徒御中

二二八　足利將軍家御教書(文和二、七、六)

天下靜謐御祈禱卷數、入見參候了、仍執達如件、

文和二年七月六日　沙　彌(花押)

神護寺衆徒御中

○本文書の裏打紙の餘白に、「自濃州卷數御返事、奉行入道クラチノ」なる後註あり。

二二九　足利義詮御教書(文和二、七、八)

天下靜謐御祈禱、近日殊可致懇丹之狀、如件、

文和二年七月八日　(義詮花押)

高雄神護寺衆徒中

二三〇　足利尊氏御教書(文和二、十、七)

祈禱事、可致精誠之狀、如件、

文和二年十月七日　(尊氏花押)

神護寺衆徒中

二三一　足利將軍家御教書（文和二、十二、廿八）

歲末御祈禱卷數、入見參候了、仍執達如件、

文和二年十二月廿八日　　前肥後守（花押）

神護寺衆徒御中

二三二　足利將軍家御教書（文和二、十二、廿九）

御祈禱卷數一枝、令入見參候畢、仍執達如件、

文和二年十二月廿九日　　伊賀守（花押）

神護寺衆徒御中

御返事

二三三　足利義詮御教書（文和三、九、廿六）

天下靜謐祈禱事、中國下向之間、可被致精誠之狀、如件、

文和三年九月廿六日　　（義詮花押）

神護寺衆徒御中

二三四　後村上天皇綸旨（正平九、十一、十一）

依河州　臨幸取分御祈禱事、御卷數三枝、披露之處、殊以目出候、彌可被致精誠之由、被仰下候也、恐々謹言、

○イ「正平九」十一月十一日　　修理大夫（花押）

二三五　坊城右大辨俊冬書狀（文和四、正、十四）

御卷數執進候了、目出候之由、其沙汰候也、恐々謹言、

○イ「文和四」正月十四日　　右大辨俊冬

二三六　後村上天皇綸旨（正平十、正、廿九）

○本帋

御祈禱事、御卷數披露之處、殊以神妙、彌可被致精誠之由、被仰下候也、恐々謹言、

○イ「正平十」正月廿九日　　修理大夫（花押）

神護寺々僧御中

○禮帋

追申

滿寺御祈禱事、御卷數則披露之處、懇懃之沙汰、尤神妙之由、同所候也、此趣可被傳仰候哉、

二三七　某書狀(正平十、二、五)

御卷數執進候了、殊目出候由、其沙汰候也、恐々謹言、

○イ「正平十」　二月五日　（カ）章　野

神護寺々僧御中

二三八　足利尊氏御教書(文和四、二、十二)

○本帋

(端貼帋)「將軍家御教書、奉行小田伊賀守」

天下靜謐御祈禱事、近日殊可致精誠之狀、如件、

文和四年二月十二日　(尊氏花押)

神護寺衆徒中

○包帋

○イ「たかを」神護寺衆徒中　尊氏

二三九　裏打紙後註(年月日缺)

「大方殿、自坂下、卷數御返事」

○本文書は伏して、裏打紙に記せし後註のみ殘る。

二四〇　足利將軍家御教書(文和四、三、四)

天下靜謐御祈禱卷數、令入見參候了、仍執達如件、

文和四年三月四日　沙　彌(花押)

高尾神護寺衆徒御中

二四一　大和守奉御教書(正平十、四、八)

御祈禱卷數一枝、令入見參候畢、殊以目出度候、仍執達如件、

正平十年卯月八日　大和守(花押)

高尾衆徒中

二四二　桃井直常書狀(——、四、八)

祈禱卷數一枝、給候了、精誠之至、殊更目出候、恐々謹

言、

卯月八日　　直常（花押）

二四三　後村上天皇綸旨（正平十、四、九）

天下靜謐御祈禱事、近日殊可令致精誠者、
天氣如此、悉之以狀、
正平十年四月九日　　右中辨（花押）
神護寺々僧中

二四四　左京大夫奉御教書（正平十、四、十五）

祈禱卷數、賜候了、殊可被致精誠之狀、如件、
正平十年卯月十五日左京大夫（山名時氏花押）
高雄寺衆徒御中
御返事

二四五　萬里小路嗣房奉御教書（——、四、七）

五壇護摩御卷數、執達了、神妙由、被仰下之狀、如件、
四月七日　　右兵衛佐嗣房

二四六　仁木兵部大輔義尹書狀（康安二、九、十）

○本帋
丹波國吉富新庄惣追捕使職并刑部郷公文職事、高雄神護寺雜掌、帶去年十一月廿日御教書、歎申之、支狀謹進覽之候、以此旨、可有御披露候、恐惶謹言、
康安二年九月十日　　兵部大輔義尹（花押）
進上　御奉行所
○包帋
○貼帋「守護注進支狀」
進上　御奉行所　　兵部大輔義尹

二四七　某書狀（——、四、十二）

河上庄本下司末孫野尻四郎實廣、捧此申狀候、可爲何樣候哉、凡此事、先々度々令令執申候、不被裁許、而送星霜候之間、未進等、近年重疊候、如當時者、目錄面、大略有名無實事候歟、可然之樣、可有申御沙汰候哉、恐惶謹言、

四月十二日　　(草　名)

進上之候

二四八　重長書狀(——、七、六)

○本帋

御札委細承候了、兼又大服茶給事、悦存候、寺家よりく卷ハんすゆ給候、悦入候、諸事可申承候、恐々謹言、

七月六日　　重　長(花押)

○禮帋　(切　封)

○イ「小林卷數返事」　　重　長

二四九　細川清氏書狀(——、四、十四)

祈禱卷數一枝、給候了、彌被致精誠候者、公私目出度候、恐々謹言、

卯月十四日　　清　氏(花押)

二五〇　細川頼之書狀(——、十二、廿七)

歳末卷數、給候了、御祈念之至、爲悦候、恐々謹言、

十二月廿七日　　頼　之(花　押)

神護寺々僧御中

二五一　某假名書狀(年月日缺)

御くわむしゆ卷數、まいり候ぬ参、けさむに入て候見参、返々めて目出度たく候、猶々も、御いのり祈、たのもしく候恐敢と、いらへ事應にて候、

二五二　某奉書禮帋書(年月日缺)

追仰

御卷數等、執進了、

二五三　足利義滿御教書(應永四、九、三)

高雄神護寺領丹波國吉富新庄内、鳥羽村刑部郷預所職事、早且任建武五年御寄進狀、且爲寶篋院殿御菩提料所、所寄附之狀、如件、

應永四年九月三日

入道准三宮前太政大臣(義滿花押)

二五四　足利義滿御教書(應永六、十一、十九)

凶徒對治祈禱事、近日殊可致精誠之狀、如件、

應永六年十一月十九日　(義滿花押)

神護寺衆徒中

二五五　足利義滿御教書(應永八、三、八)

高雄神護寺領丹波國吉富本新兩庄事、

右任證文等幷當知行之旨、寺家領掌、不可有相違之狀、如件、

應永八年三月八日

入道准三宮前太政大臣(義滿花押)

二五六　足利義持下知狀(應永十六、六、五)

(端貼紙)「義持將軍」

於高雄神護寺山、甲乙人、伐取要木幷薪等之由事、早任應永八年御下知之旨、寺用之外、永所令停止也、若有違犯之輩者、爲處罪過、可注申、寺僧等、宜存知之狀、下知如件、

應永十六年六月五日

右近大將源朝臣(義持花押)

二五七　足利義持下知狀(應永十八、七、十二)

高雄山神護寺雜掌與山門雜掌相論、丹波國吉富新庄刑部鄕內、池上大日寺幷池內免田畠等事、

右當寺者、去元曆元年御寄附以來、帶數通之證狀、神護寺知行、敢無相違矣、而山門雜掌、捧攝津權守景國之治安四年寄進狀、經三百餘歲之後、觀應元年、始而申給勅裁之間、則經　奏聞、被召返　綸旨之處、其後猶連々企訴詔、雖掠申、　綸旨御教書等、重有執　奏、被閣聖斷之條、康應元年七月十八日、預御裁許訖、爰去々年應永十六、中當知行之由、掠給安堵之條、甚以狡謀也、仍於彼安堵者、所召返也、所詮且云觀應貞治之執　奏、且云康應々永之御判、旁以不及豫儀、然早任當知行之旨、神護寺領掌、不可有相違之狀、下知如件、

應永十八年七月十二日

內大臣源朝臣(義持花押)

二五八　足利義持御教書

(應永十九、十二、十五)

高雄神護寺雜掌申、丹波國吉富庄炭運送通路事、訴狀具書如此、同國下細河庄民等、致濫妨云々、太不可然、所詮任證文等之旨、停止新儀之違亂、如元可全寺家執務之旨、可相觸、若又有子細者、可注申之狀、如件、

應永十九年十二月十五日　　(細川滿元花押)

細河遠江入道殿

二五九　細河遠江入道施行狀

(應永十九、十二、十九)

高雄神護寺雜掌申、丹波國吉富庄、就炭運送通路事、同國下細河庄民等、致濫妨云々、太不可然、所詮任今月十五日御教書旨、如元可全寺家之執務之旨(マヽ)由、可被相觸、若又有子細者、可注申由之狀、如件、

應永十九年十二月十九日　　沙彌(花押)

淵名次郎左衞門入道殿

二六〇　常蓮奉書(應永十九?、十二、廿六)

細河庄與永野村、就山相論、止通路、進公方御炭以下、不透之由、自寺家、被歎申之間、以奉行齋藤加賀方、被伺申之處、理非之段、可追申、上進御炭、同通路、無相違可有勘過之由、所被仰下也、

十二月廿六日　　常蓮(花押)

本庄次郎左衞門殿

二六一　足利義教御教書(永享三、十、十七)

高雄神護寺領丹波國吉富本新兩庄諸公事幷段錢以下臨時課役等、永所令免除也、早爲寺護使不入之地、寺家可全領知之狀、如件、

永享三年十月十七日

○貼紙
「普廣院殿」

右近衞大將源朝臣(義教花押)

二六二　足利義政御教書（長祿三、十二、二）

高雄神護寺領丹波國吉富本新兩庄諸公事幷段錢以下臨時課役等事、任先例、永所免除也、早爲守護使不入之地、寺家彌可全領知之狀、如件、

長祿三年十二月二日

○貼紙

「慈照院殿」

内大臣兼右近衛大將源朝臣（義政花押）

○本文書の端及び奥の裏の下部に、繼目花押各々半分あり。

二六三　良盛書狀（——、正、廿三）

（端裏書）「みかさかの山の事」

何事御入候哉、

抑みかさかの下の教園院山事、身かくわんれいの子細候、就其ハ、料足、今月中ニ、大切事候へハ、十貫文、先御祕計候て、給候ハゝ、可悅入候、但此山、八貫文ニ當候由、承及候へハ、今二貫をハ、二月中ニこなたより、必々本利共ニ、返申候へく候、相構々々、今月中ニ、御祕計候て給候へく候、山をハかいぬし、やかてきり候とも、子細候ましく候、委細事ハ、以面申承候へく候、恐々謹言、

正月廿三日　　良盛

二六四　某書狀（年月日缺）

（端裏書）「本光　送物之案」

年々とし〳〵御目出度めてたく、上さまの御かゝみ、御あし一ゆい結給候、返々畏入候、御きたうハ、よく〳〵申入候へく候、此由このよし、申させ給へ、あなかしく、

侍者御中

二六五　是安宗左衛門尉兼俊書狀（——、三、廿三）

尤下野守、雖御返事可申候、取亂子細候之間、非其儀候、仍御公用錢幷檀供、進納申候き、況從牛枕庵御借錢、無落居候之條、福井庄御公用、可押給之由、依被申候、去

年之御公用、難有京進之處、色々子細申聞、嚴密御公用以下、致進納候、然ニ先御代官善隨、公私三百疋之折帋候、御公用之内にて、納候、於國難有落居之由申候て、高枕軒書狀にて、牛枕庵江被申、書狀只今進之候、其折節、善隨不慮之儀候之間、于今預置候、將又去年高枕軒、爲香錢(カ)百疋、則下野守ニ申聞候、何も心得候て、可申之旨候、然者相殘千疋之分、嶋田我々爲兩人、渡申候、次御壇供方、近年拾合之定ニ、庄内より算用仕候間、去年石貫ニ宛、拾六貫文にて候、糠之定と承候之間、其分、從當年、可申付候、此旨、於寺家、可有御披露候、恐惶謹言、

三月廿三日　　兼　俊(花押)

(切　封)　　是安宗左衞門尉

高雄山御代官まいる御同宿御中　　兼　俊

二六六　太政官牒(建久元、六、廿六)

(端裏書)「阿闍梨官符建久元年」

太政官牒神護寺

應置阿闍梨伍口事

右太政官今日下治部省符�、正三位行權中納言藤原朝臣兼光宣、奉　勅、件阿闍梨伍口、宜置彼寺者、省宜承知、依宣行之者、寺宜承知、牒到准狀、故牒、

建久元年六月廿六日　　修理左宮城判官正五位下行左大史小槻宿禰(花押)牒

從四位上行權右中辨平(○棟範自署)「朝臣」

○本文書には、印文「太政官印」なる方形朱印三顆を捺す。

二六七　神護寺解(建久元、十一、廿五)

(端裏書)「始被置阿闍梨之放解文宮案」

神護寺

請被殊蒙　天恩、賜官符、當寺定置傳法灌頂阿闍梨伍口狀、

傳燈大法師位行顯(年廿)　東大寺　眞言宗

傳燈大法師位成辨鵤年東大寺　眞言宗
傳燈大法師位寛昭鵤年東大寺　眞言宗
傳燈大法師位性憲鵤年東大寺　眞言宗
傳燈大法師位長運鵤年東大寺　眞言宗

右去六月廿六日　宣旨偈、當寺定置傳法灌頂阿闍梨伍口、永令勤仕　御願、敢莫偏黨者、而撰於宗徒、求于學者、件等人、受學兩部大法、練行諸尊瑜伽、尤足爲阿闍梨位矣、加之、或年萬漸至、或衆學是得、望請　天恩、早任宣旨、件伍口、被授與阿闍梨位、永使勤　御願、久奉祈寶祚、令勤狀、謹請、處分、

○自署歟

建久元年十一月廿五日沙門「道法」

二六八　太政官牒（建久元、十二、廿五）

（端裏書）「阿闍梨任補官符」

太政官牒神護寺

應補阿闍梨伍口事

傳燈大法師位行顯鵤年東大寺　眞言宗
傳燈大法師位成辨鵤年東大寺　眞言宗
傳燈大法師位寛昭鵤年東大寺　眞言宗
傳燈大法師位性憲鵤年東大寺　眞言宗
傳燈大法師位長運鵤年東大寺　眞言宗

右得沙門道法親王去月廿五日奏狀偈、去六月廿六日宣旨偈、當寺定置傳法灌頂阿闍梨伍口、永令勤仕御願、敢莫偏黨者、而撰於宗徒、求于學者、件等人、受學兩部大法、練行諸尊瑜伽、尤足爲阿闍梨位矣、加之、或年萬漸至、或衆學是得、望請天恩、早任宣旨、件伍口、被授與阿闍梨位、永使勤御願、久奉祈寶祚者、正三位行權中納言兼右兵衛督藤原朝臣兼光宣、奉　勅、依請者、寺宜承知、依宣行之、牒到准狀、故牒、

建久元年十二月廿五日　　修理左宮城判官正五位下行左大史小槻宿禰

（花押）牒

防鴨河使右少辨正五位下兼行左衛門權佐藤原（家實花押）

○本文書には、印文「太政官印」なる方形朱印三顆を捺す。

二六九　太政官牒(建久二、三、十六)

(端裏書)「阿闍梨官符建久二年」

太政官牒神護寺
　應置阿闍梨壹口事
右太政官今日下治部省符偈、正三位行權中納言兼右衛門督藤原朝臣隆房宣、奉　勅、件阿闍梨壹口、宜令置彼寺者、省宜承知、依宣行之者、寺宜承知、牒到准狀、故牒、
　建久二年三月十六日　　修理左宮城判官正五位下行左大史小槻宿禰(花押)牒
　　○日野資實自署
右少辨正五位下藤原「朝臣」
○本文書には、印文「太政官印」なる方形朱印三顆を捺す。

二七〇　太政官牒(建久二、四、卅)

(端裏書)「阿闍梨任補官符」

太政官牒神護寺
　應補阿闍梨事
　　傳燈大法師位性我年卌　東大寺　眞言宗
右得彼寺去月廿五日奏狀偈、今月十六日宣旨偈、當寺定置傳法灌頂阿闍梨一口、永令勤仕御願、莫偏纂者、而撰於衆徒、求于學者、件人、受學兩部大法、練行諸尊瑜伽、尤足爲阿闍梨位矣、望請天恩、早任宣旨、以件性我、被授與阿闍梨位、永使勤御願、久奉祈寶祚者、正三位行權中納言藤原朝臣泰通宣、奉　勅、依請者、寺宜承知、依宣行之、牒到准狀、故牒、
　建久二年四月卅日　　正六位上行右少史中原朝臣(花押)牒
　　○日野資實自署
右少辨正五位下藤原「朝臣」
○本文書には、印文「太政官印」なる方形朱印三顆を捺す。

二七一　太政官牒(建久九、八、三)

(端裏書)「阿闍梨闕補官符」

太政官牒神護寺

應補阿闍梨成辨闕替事

傳燈大法師位眞果年四十四　東大寺　眞言宗

右得沙門道法親王去正月十四日解狀�、謹考案內、去建久元年六月廿六日宣旨偽、當寺定置傳法灌頂阿闍梨伍口、永令勤仕御願、敢莫偏黨者、今件眞果、受學兩部大法、練行諸尊瑜伽、尤足爲阿闍梨位、望請天恩、早以件眞果、被補其闕、永使勤御願、久奉祈寶祚者、從二位行權中納言藤原朝臣忠經宣、奉　勅、依請者、寺宜承知、依宣行之、牒到准狀、故牒、

建久九年八月三日　　正六位上行右少史中原朝臣(花押)牒

○日野資實自署

修理右宮城使從四位上行右中辨藤原「朝臣」

○本文書には、印文「太政官印」なる方形朱印三顆を捺す。

二七二　太政官牒(寛喜二、閏正、十)

(端裏書)「牓示官符」

太政官牒高雄山神護寺

應遣官使、加巡檢、糺舊跡、且堺四至、打牓示、且禁邊樵採漁獵、當寺領事

四至

東限長谷二子磐瀧尾堺並中河　南限赤坂東峯菖蒲谷並棗光寺北峯

西限木與志於渡瀬大谷昇路云志天谷　北限小野堺磐坂峯横路

右太政官今日下山城國符偽、得彼寺所司等去月廿九日解狀偽、謹檢舊貫、當寺者、初則八幡大菩薩、垂蹟託、以安置御本尊藥師如來、伽藍開闢之濫觴也、後亦高祖師弘法、歸本朝、以流布御將來眞言密教、瑜伽傳來之根本也、其後淳和仁明建御願、光孝朱雀加修理、後白河後高倉兩代、忝憐荒廢、欲致興隆、因茲被尋舊儀、寄進寺領、加之國母仙院、早遂講堂建立之御願、被展供養之齋莚、遙顧墓跡、倩見當時、鎭護王城第一道場者歟、是則出自文覺上人之素意、再挑遍照金剛之餘輝、自尒以降、堂塔複礎石、山川限寺領之間、東限長谷二子磐瀧尾堺幷中河、南限赤坂東峯菖蒲谷幷棗光寺北峯、西限木與志於渡瀬大谷昇路、云志天谷、北限小野堺磐坂峯横路也、而近

來樵採漁獵之輩、率多勢、致濫行、飡霞臥雲、侶加制禁、不叙用、悲哉大師結界之地、忽爲獵者樵夫之場、哀哉佛法流布之世、猶成住持三寶之妨、住侶進退惟谷之間、相觸子細於六波羅之處、差遣武士二人安東藤內石坂次郎、召對素光寺沙汰人進士藏人、不知實名、寺家使相共踏山堺、尋舊跡、任道理裁斷畢、而近日亦嵯峨樵夫等、引率數輩、相語素光寺新地頭、亂入寺領、所企無道之沙汰也、佛法之紹隆、僧侶之止住、斯時猶不安堵、後代宜垂鑒察、不堪地忍、所仰天憐也、蓋乃任衆徒之愁訴、啓此等之子細而已、望請官裁、早被下宣旨官符、且停當時狼藉、且斷向後牽籠者、仰伽藍之尊崇、奉祈淳朴之叉安者、正三位行權中納言藤原朝臣賴資宣、奉　勅、依請、遣官使堺四至、定勝示、禁邊樵採漁獵者、國宜承知、依宣行之者、寺宜承知、牒到准狀、故牒、

寛喜二年閏正月十日　修理東大寺大佛長官正五位上行左大史兼紀伊守小槻宿禰(花押)牒

○葉室光俊自署

正五位上行右少辨藤原「朝臣」

○本文書には、印文「太政官印」なる方形朱印四顆を捺す。

二七三　太政官牒(延應元、五、九)

(端裏書)「阿闍梨　官符　延應元年」

太政官牒神護寺

應置納涼坊阿闍梨壹口事

右太政官今日下治部省符偁、得法務僧正法印大和尙位覺敎今月一日奏狀偁、謹考一朝之恒規、伏案吾宗之故實、依法驗、預勸賞者、累代芳躅、明時之龜範也、爰覺敎去四月十五日、忝被綸言之際、屢凝丹精之處、暮雲忽陰月蝕不現、卽被仰其賞、此老後慶幸也、外彌仰皇猷之令然、內亦喜法力之不空矣、望請天恩、任申請、以三口阿闍梨、被寄置東寺灌頂院、高野山奥院、神護寺納涼坊等者、永留佛德於佛閣、將祈聖化於聖跡者、正二位行中納言兼侍從藤原朝臣爲家宣、奉　勅、依請者、省宜承知、依宣行之者、寺宜承知、牒到准狀、故牒、

延應元年五月九日　修理東大寺大佛長官正五

位上行左大史小槻宿禰
（花押）牒　○葉室定頼自署
正五位上行右少辨兼右衛門權佐藤原「朝臣」
○本文書には、印文「太政官印」なる方形朱印三顆を捺す。

二七四　太政官牒（元應元、十、廿六）

太政官牒高雄山神護寺
應任德治三年院宣旨、被請補灌頂小阿闍梨事
右得彼寺三綱等去八月日奏狀�、當寺者、和氣氏建立、八幡大菩薩主詫之庭也、民部卿清麿朝臣、親奉神宣、奏聞公家、寶龜年中被下詔書、桓武皇帝、以前詔書、普告天下、建一伽藍、號之神願寺、天長十年重下勅、更爲定額、得度經業例、已爲永格、一則果大神之大願、二則除國家之災難者、綺存竹牒、不違羅縷、高祖弘法大師、受眞綱大夫寄附以降、擇此地、爲禪定之所、卜當寺、爲護法之庭、改寺號、名神護國祖（マヽ）眞言寺、玉像比肩、皆似盡巨靈之功、金容結趺、無不假毗首之手、朱軒畫閣之構、擘山腹、以開置、廣廊長廡之基、攀雲根、以交峙、碧灣流遠、足滌煩惱之垢塵、石龕苔深、堪凝禪點之靜慮、春花秋草、自備供養之妙儀、夕梵晨鐘、暗驚長夜之眠、于誠是佛法相應之福地、密教最初之靈場也、何者、瑜伽之中、極秘者、菩薩大士灌頂法門是也、此詣極之夷途、爲入佛之正位、於灌頂、有結緣、有傳法、結緣者、謂隨時競進者、皆授之、傳法者、謂簡人待器、而方許之、然乃鎭護國家饒益人物、無如此教、此教之極秘者、灌頂法門、灌頂之甚深者、結緣之功能而已、往昔大廣智三藏、以大唐天寶五載、於宮中、始修此會、上自一人、下至庶人、無不被其化、本朝則大師傳法之初、以弘仁三年十一月、於當寺修金剛界會灌頂、以同年十二月、重修大悲胎藏灌頂、結緣者一百餘人、至今五百餘歲、會儀遍于天下、德廣之所及也、溫其蹤跡、起自當寺事、已濫觴也、豈可忽諸（マヽ）哉、彼東寺灌頂者、始於承和之曆、早爲不易之例、觀音院灌頂者、溯隔年代、又同本寺、至當山者、雖爲本朝之根本自家之最初、未被補阿闍梨、寺僧等、相替勤其職、殆似無條貫、理豈可然哉、夫欲流之遠者、必深其本源、欲樹之茂者、必固其根株、一山之緇徒、滿寺之

淨侶、抱理而徒送多年、呑憤未能上奏、於是去德治年中、忝促仙蹕、幸預勅賞、因准東寺觀音院例、被置灌頂阿闍梨既訖、院宣之致、載而炳焉、時遷事變、未在施行、天符又滯、星炭稍積、愁歎之切、寤寐無聊、方今皇帝陛下、膺九五之運、受三六之德、遐邇欽伏、仁恩普被、剛又姑射春山、重楦煙霞之氣包、汾陽秋水、再瀉日月之精明、法雲覆九天、清風扇万古、眞諦俗諦、如羽如翼、無偏之世、遇逢之秋也、竊魚得水、遂東海之性、行鸚託雲、展南溟之翮、冀日之本懷、非此日而期何日、往年之素意、非此年而待何年矣、望請鴻恩、被下官符、施行天下、補灌頂之闍梨、勅勅願之威儀、以弘祕密之源、以知自宗之貴、增鎮守明神之威光、報高祖大師之恩德、上闢聖朝鎮護之基、下立兆民安寧之計、送五十六億之年、香雲無消、至下生三會之曉、智水彌洽者、不勝懇歎之至者、正二位行中納言源朝臣親房宣、奉　勅、依請者、寺宜承知、依宣行之、牒到准狀、故牒、

元應元年十月廿六日　修理東大寺大佛長官正五位上行左大史兼能登介小槻宿禰(花押)牒

從四位下行左少辨兼中宮大進藤原朝臣(○万里小路藤房自署)

○本文書には、印文「太政官印」なる方形朱印六顆を捺す。